

◎宇電懇シンポジウムのお知らせ

「星の生成・星間ガスから星の誕生まで」 第0次案
 今年1月の宇電懇シンポ「銀河の構造と進化」で指摘されたように、星の生成についてその trigger となるもの、生成の力学的、熱的過程、星間ガス雲の進化等観測的側面からの知見もふえ、一定のシナリオをつくるのが可能となりつつあります。そこで今回「星間ガスの状態—星間雲の状態（分子形成）—原始星への進化（回転、磁場、乱流の効果）」という一連の流れを追いつつ、星の生成過程の全体像を明らかにする」ということを目的としたシンポジウムにしたいと考えています。第0次案案として以下のように考えています。

○総論 「星間物質の進化」 (池内、海部)

○星間ガスの状態

理論 「ここ10年の理論的進化」 (高柳)

観測 「(他銀河を含めた) 星間ガスの分布」

福井・電波

山下・X、UV

若松・H II

○星間雲の状態

理論 「分子雲の構造、進化」 (中川、鈴木)

観測 「分子、ダストと星間雲の状態」 (奥田、舞原)

○原始星への進化

理論 「星間雲の収縮」「プロト星の役割」 (中野、大谷)

観測 「赤外線で見えた原始星」 (佐藤修)

() 内の氏名はreviewer をお願いする予定の人です。変更があるかも知れません。
 おおざっぱな第0次案ですが、その全体的なイメージへの意見、reviewer または review 内容についての意見があれば、下記世話人へ寄せて下さい。
 予定は12月下旬(または1月中旬)、八王寺セミナーハウスとなっています。

世話人：池内 了(北大理)、寿岳 潤(東京天文台)

今後の予定

- 8月中：主な reviewer との交渉
- 9月中：第一次案決定、期日会場の確定
- 11月：プログラムの決定—一般講演募集
- 12月上旬：最終プログラム確定

第1期 日本学術会議電波科学研連J分科委員推薦について

J分科主任 田中春夫
昭和53年8月14日

上記委員推薦は前回(50年11月)より電波天文研究者の投票により行って来ました。ここで電波天文研究者とは、電波天文学の分野の研究に従事する大学卒業後2年以上あるいはそれと同等以上の研究歴を有する人となっています。
 投票有資格者名簿の確定は個人による登録によって行います。前回の有資格者名簿を添付しますので、

(1) 名簿から名前を削除してほしい人、

(2) 名簿に新たに登録したい人

は、その旨を下記世話人まで申し出下さい(×切：8月31日)。
 本状は前回有資格者に発送し、宇電懇ニュースに公示します。
 近くの方々に御連絡下さい。

世話人：蝦目信三 豊川市穂ノ原3丁目13 (〒442)
名古屋大学空電研究所

第10期選挙有資格者名簿 (順不同)

東北大。理。天文
福島大。教育。地
新潟大教育。物
東京天文台

東京天文台。野辺山

東大。理。天文

東大。宇宙研
早稲田大
電波研。鹿島

電波研。国分寺
宇宙開発事業団
立教大。理。物
千葉教育センター
木更津工専
K D D研究所
三菱電機。中央研
分子科学研
名古屋大。理。物

名古屋大。空電研

名古屋大。プラ研
中部工大。電子
奈良教育大
京大理。宇物

仏教大
京都産業大
兵庫医大。物

高窪啓弥
大木俊夫
田中利一郎
赤羽賢司。磯部孝三。桑原竜一郎。古在由秀
沢 正樹。塩見靖彦。渋谷暢孝。松波直幸。海部宣男。
系 茂。東条 新。森本雅樹。宮沢敬輔。末元善三郎。
中島浩一。宮地竹史。長根 潔。守山史生。田中春夫。
甲斐敬三。中島 弘。平林 久。関口英昭。
梶場 進。
海野和三郎。福井康雄。小平桂一。高倉達雄。
近田義広。稲谷順司。
大林辰蔵。小田 稔。田中靖郎。
大師堂経明
川尻大。河野宣之。山本 稔。高橋富士信
山下不二夫
尾島武之。石田 亨。
羽倉幸雄。船川謙二。
会津 晃。
佐藤文男。
小平真次。中村 強。
横井 寛
喜連川隆。
斎藤修二。
松本敏雄。伊藤浩式。早川幸男。小川英夫。面高俊広。
河懿公昭。祖父江義明。土佐 誠。福井 満。
鈴木育郎。藤下光身。藤本光昭。井上 充。
石黒正人。鰐目信三。林沼隆清。小島正宣。渡辺 晃。
柴崎清登。鳥居近吉。
寺島由之介
江口博之
野村 勉
大谷 浩。昆野正博。
清水 弘
三好 蕃
前田耕一郎

以上8名

